怡土人権だより

令和４年度
第２号
１１月１日発行

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部
略 称：市同協怡土支部

―同和問題啓発強調月間の取り組み―
怡土支部「人権講演会」に参加して

例年７月は「同和問題啓発強調月間」です。

そのため、７月２日（土）市同協怡土支部主催による「人権講演会」が怡土コミュニティセンターに於いて開催されました。

講師は、元公益社団法人福岡県人権研究所事務長「西原茂徳さん」

演題は

「よき日のために」
～あらゆる差別が解消される世の中の実現を願って～

明治６年西日本を中心に、新政府反対の一揆が多発し、福岡でも「筑前竹槍一揆」が10万人の規模で発生しました。

まだまだ江戸時代の名残を色こくとどめていて、一揆の掟「一揆には成人男性（15才～60才まで）は必ず参加」という約束事が浸透していたことから、明確な意思を持たずに参加した人も多かったと思います。

差別は人と人との関係性の中から生まれ、人間が生み出した意識構造です。

そうであるとするなら、私たち人間の営みの中でしかその解消は図れません。

差別をなくすには、社会に存在する様々な不合理な事象に目を向け、確かな考え方を持って、人として偏見を持たない向き合い方をしていく人が増えていくことが大切です。

部落差別をはじめとした、あらゆる差別をなくすのは、私たち一人ひとりの生き方にゆだねられているのだと思いました。

【曽根行政区推進委員】

フィールドワーク
― 太刀洗特攻基地で戦争を考える ―

今年のフィールドワークは、ロシアのウクライナ侵攻という国際環境下、戦争について学ぶために、太刀洗方面の戦争遺構を訪ねることにしました。

ロシアの武力による領土変更という行動はどう考えても国際秩序違反で許されないことですが、戦争そのものに良いも悪いもありませんし、結局のところ互いが重い十字架を背負ってしまうことになります。

下記の日程で、戦争の歴史と、筑後川の灌漑用水事業について学んでまいります。

日　程：１１月８日（火）
視察先：太刀洗・朝倉方面

二支部交流会に参加して

コロナ感染拡大のため中止となった波多江支部との２支部交流会が、怡土コミュニティセンターで８月２日、３年ぶりに開催され、２支部に加え、前原東中学校生徒会人権委員会の正副委員長と担当の先生に参加いただきました。

まず、各支部の活動の概要説明のあと、前原東中学校人権委員会の取り組みについて説明されました。

生徒会活動で人権委員会がある中学校は珍しく、「意見や悩みを伝えられる環境がある学校」を目標として、一日を通じて生徒同士で挨拶声かけをおこなう「あいさつ週間」運動や「人権ボックス」を設置してアンケートを集め、生徒の悩みを同年代の視点で人権委員会がまず相談に対応する等のユニークな活動が紹介されました。

意見交換では「新型コロナ禍で起きた差別に学ぼう」のテーマで、まず前原東中学校からここ数年のコロナ禍で学校生活に様々な問題が生じ、先生生徒共に大変な苦労をされていることなどが報告されました。

東中学校からの報告

人権委員会の発表

その後、伊東山支部長より、コロナは感染が拡大する問題だけではなく、「不安」という第２の感染症、「嫌悪・偏見・差別」という第３の感染症が発生し、人と人との信頼関係や社会とのつながりに問題が生じていることが説明され、その後各出席者で活発な意見が交わされました。

今回の交流会は、コロナによる新たな人権問題も含めて、これからの人権課題に対応するため、地域・学校などのコミュニティが一丸となり、人権啓発に取り組む必要があることを考える機会となりました。

【怡土支部事務局】

人権映画祭
「われ弱ければ」
～矢嶋楫子伝～

禁酒・廃娼・一夫一妻制・新しい女子教育・・・
江戸後期から大正まで生き抜き、
一途に女性の地位向上を目指した生涯

この映画は、熊本県益城町に生まれ女性の地位向上に一生を捧げた教育家、矢嶋楫子の生涯描いた、すべての女性にエールを贈るような作品です。

自分らしく生きるために自分を貫くには一人の人間として尊厳を持って生きるために学ばなければならないし、闘わなければならないし、アンテナを伸ばし連帯をして、何より自分でしっかりと考え抜く力が必要でした。

男尊女卑だった時代に…と書くと今がより良くなっているかのように感じられますが、本当に良くなっているのでしょうか？

私も人の事は言えないのですが、楫子が結婚した当時の夫のような男が未だに世の中を闊歩しているのではないかと感じています。

そんな男性たちを全否定しなければならないのだから、今現在が楫子の生きた時代とどれだけ違うのかわかりませんが、不断の努力によっての み守られる国民主権と同様に、闘うべき時に闘わなければならない。

そうしないと差別や偏見などというものはいつまでたっても無くならないのではないでしょうか。

矢嶋楫子は、次代を生きる女性たちに、より良い時代を渡したいと願い、現在もある女子学院の初代校長、キリスト教矯風会の設立、婦人参政権運動、廃娼運動、一夫一婦制、男女平等論など社会改革運動にも力を注いできました。

1910年頃の女学院

一人でも多くの方に観て頂きたい映画ですので、早めのご予約をお待ちしております。

【三雲行政区推進委員】

原作　三浦綾子
監督　山田火砂子
【キャスト】
・常盤貴子
・石黒賢
・渡辺いっけい
・キャロリン　愛子ホーランド
・渡辺大
・藤吉久美子
・竹下景子

令和４年度怡土支部人権映画祭

開催日時　１２月４日　（日）
１３時３０分　開会

※コロナ感染防止のため、事前予約制（５０名）で開催いたします。

怡土コミュニティセンターへ
予約をお願いします。
（０９２－３２２―７８１５）

「いのち」に学ぶ学校
―県立糸島農業高校―

糸農では２年生で部落差別について学習しています。

職業に関する差別として、皮革産業を題材として扱うことが多いのですが、本校では食肉用の動物を育てていることもあって、食肉処理について学ぶことで「いのち」をいただくことの意味や、私たちの生活を支えるために働く人たちの欠くことのできない優れた技術、そして、人々の心に差別が芽生える仕組みについて学んでいきます。

今年度は、実際に食肉産業で働いていた本校職員によって、現場の写真を使いながら学習が進められました。

学科によっては、全員で食肉処理施設の見学に行くこともあります。

この学習をする目的は、血を連想する仕事は穢（けが）れているという根拠のない思い込みが、「知らないこと」に始まっていて、真実を知らないから恐れる、恐れるから排除や攻撃をするという「無知」が生み出す差別の仕組みに気づくことです。

それがわかれば、コロナ感染への対応の際に見られた医療従事者への差別の構造も理解することができるはずです。

農業高校で学ぶ生徒たちは教育活動を通して「いのち」に対する豊かな感性が育くまれています。

今年、全国の農業高校生対象に行われた川柳コンテストには６７８２点の応募があり、糸農生の作品が優秀賞８作の中に選ばれました。

【特別寄稿】福岡県立糸島農業高校　清水正道先生

入学し　重み変わった
「いただきます」

怡土小学校人権標語
（5年生・6年生）

いじめだめ
大切にしよう
友達を　K・I

やめようよ
いじめで得する
人いない　H・K

やめようよ
かげでこそこそ
悪いこと　S・H

いじめだめ
命が消える
その前に　Y・A

人にはね
友にも見せぬ
きずがある　M・N

いじめはね
たくさんの人を
きずつける　Y・H

手洗いは
コロナ対策
第一歩　M・K

あいさつは
みんなとつながる
あいことば　K・Y

ともだちと
なかよくしよう
いじめだめ　A・K

なくそうよ
みんな一緒だよ
差なんてないよ　Y・F

見ないふり
それはいじめと
同じだよ　S・S

全クラス
あいさついっぱい
元気だな　S・S

いじめダメ！
いじめたキミは
犯罪者　J・D

いじめだめ
いじめを見たら
止めようよ　R・F

いじめって
だれも得せず
意味がない　K・K

友達への
思いやりで
花が咲く　Y・O

人々の
悲しい顔は
見たくない　R・Y

マスクでも
言える言葉は
ありがとう　S・K

考えた
その行動は
いいことか　R・M

いじめだめ
一つの言葉で
相手は悲しむ　S・O

悪口は
心にのこったら
なおらない　Y・N

いじめだめ
されたらいやな
ことしない　K・K

思いやり
言葉でつなぐ
いじめなし　H・K

その心
みんなで繋げば
笑顔花　R・O

命とは
みなの大事な
たからもの　E・S

考えてみよう
その一言を
言う前に　K・S

いじめだめ
数の暴力
やめようね　R・Y

ともだちが
あいさついっぱい
あったかい　R・U

マスクして
コロナ感染
予防しよう　S・S

戦死した
人の分まで
生きていく　R・O

いじめだめ
人の気持ちも
考えよう　J・T

仲間はずし
その一言で
キズがつく　S・H

コロナでも
あなたと私
お友達　K・K

楽しいは
生きているから
思うんだ　Y・O

ありがとう
ことばでつながる
絆の輪　A・K

私の命
わたしだけのものではない
家族が育ててくれたもの
N・S

前原東中学校人権作文

いじめ

R・Y

私は小学四年生の時に、筆箱をトイレのごみ箱に隠されたことがあります。

最初は筆箱をどこかに忘れてきたのかと思っていました。でも、それが見つかりませんでした。

なので私は先生と友達に一緒に探してもらうように伝えて、全員教室中をずっと探し続けました。

それでも見つかりませんでした。

その時私は少し嫌な予感がしました。

すると友達から「トイレにあったよ。」と言われたので行ってみると、買ってもらったばっかりの筆箱が汚いごみ箱の中に捨てられていました。

私はびっくりしすぎて何も言葉が出てきませんでした。

その理由は、それまで仲間はずれをされたわけでもなかったからです。

それから私は先生と家に帰り、母の顔を見て今までがまんしていた分、母も一緒に泣いてくれました。

それから私は、家族以外の人を信じられなくなり、学校にもう行きたくないと強く思いました。

母からは「学校で泣かんでようがまんしたね。捨てた子が出てくるまで学校に行かんで良いけんね。家で勉強すれば良いっちゃけん、無理して行く必要やら無いとよ」と言われました。

もし、学校に絶対行きなさいと言われていたら、私は居場所がなくなり、今ごろどうなっていたか分かりません。

結局、捨てた子が見つかることはありませんでした。

私は辛い思いをして休んでいても、捨てた子は当たり前のように楽しく学校に行っていると思うと、はがゆくてすごくくやしかったです。

でも、母から「人に悪いことをして傷つける人は、なんらかの形で絶対自分にふりかかってくるから、あなたは絶対同じ事を人にしないでおけば必ず良いことがあるよ」と教えてもらいました。

それから、一年半学校に行かず、糸島に引っこす事が決まり、新しい学校生活が始まりました。

私はすごく楽しみとドキドキと、色んな気持ちがありました。

でも、二個下の弟と行けたので心強かったです。

新しい学校生活は、思っていた以上に毎日が楽しく、たくさんの思い出が出来ました。

世の中にはいじめで大人、子ども関係なく自殺をする人がたくさんいます。

いじめをする人はどういう理由があっても、絶対人を傷つけることはしたらいけないと思います。

そして、周りの人は見て見ぬふりはしてはいけません。

何かおかしいと思ったらすぐ誰かに伝えてあげたりすれば、それだけでも人の命が助かります。

いじめられた人は、一人で考えず、誰かに助けを求めるべきです。

学校などでいじめがあった時にすぐ大人の方が動かなかったりして、いじめられた子がSOSをだしても対応してもらえず、たえられなくなり自殺してしまい、その事がニュースになっているのを何回か見たことがあります。

いじめられた子が亡くなってから、大人の方が謝罪しても遅いのです。

その子の命は戻ってくることはありません。

いじめに、このくらいは大丈夫という事はまずないと私は思います。

だから少しのSOSでも耳をかたむけて、真剣に向き合ってもらえれば、助かる命が増えると思います。

私はいじめにあい、辛い思いをしましたが、こんなにいじめが辛いという事、自分一人でかかえこむ事がいけないんだと分かりました。

この世の中で少しでもいじめで自殺をする人が減れば良いなと思います。

人をいじめたり、うらんだりするのではなく、困っている人を助けてあげたり人のためになる事を皆が進んですればいじめはなくなると思います。

もしこれから先いじめにあっている人や、辛い思いをしている人を見かけたら、話を聞いてあげて、自分達で解決できない事だったらすぐ大人に相談をし、助けにいけたら良いなと思います。